



国を越え、町を越え、何年にもわたり、育まれてきた友情と絆。文化や言語は違えども、鶴田町の交流の「輪」は広がり続ける。

交流の輪

特集



鶴田町では、一つの市と姉妹都市盟約、一つの町と友好交流協定を結んでいます。一つの市とは米国オレゴン州フッドリバー、一つの町とは鹿児島県さつま町（旧鶴田町）。フッドリバー市とは昭和52年に姉妹都市盟約を締結。一方、鹿児島県さつま町とは、「鶴田町」という同じ名前が縁で交流を始め、平成9年に姉妹都市盟約を締結、平成22年に友好交流協定を締結しました。

以降、二つの市町とは現在に至るまでたくさんの人や文化が交流を続けてきました。そして今年も八月、両市町から訪問団が来町し、当町の人や文化に触れ、友情と絆を深めました。

フッドリバー市民との交流

8月8日(金)から17日(日)まで、米国オレゴン州フッドリバー市から訪問団が来町し、町の中学校や施設を訪れたほか、つるたまつりに参加し、町民との交流を深めました。

訪問団が役場に到着すると、ホストファミリーの皆さんや役場職員が「ようこそフッドリバーの皆さん」と笑顔でお出迎えしました。



今回の訪問団は、中・高校生4人と引率の大人3人。中でもシャーリーン・ウィルキンズさんはフッドリバー姉妹都市委員会副会長を務め、当町からフッドリバーへ行く訪問団をいつも手厚くもてなしてくれました。

9日(土)、訪問団は鶴田中学校を訪れ、生徒たちと交流しました。吹奏楽部の演奏で迎えられた訪問団は、柔道部の練習を見学。畳の上に「バシーン」と投げつける様子に驚きながらも、初めて見る柔道に拍手を贈り、喜んでいました。見学後は柔道着を着て畳の上で部員との乱取りを体験。おそろのおそろ組み手を交わしながら、体落としなどの技を試していました。訪問団と生徒たちは初めて見合わす顔にお互い緊張し、照れ笑いしながらも少しずつ仲を深めていく姿が印象的でした。

11日(月)は訪問団の歓迎会



が行われました。今年3月にフッドリバー市を訪問した第30回中学生大使の工藤彩渚さんと中村陽歩さんが「いろいろな文化に触れて思い出の残る10日間にしてください」と訪問団へあいさつ。訪問団のマーク・ザンミラーさんは「この姉妹都市交流が永遠に続くことを願います」

と言葉を贈りました。また、訪問団生徒代表のローレン・トランプルさんの流暢な日本語でのあいさつには会場から大きな拍手が起こりました。

そのあと、中野町長から名誉町民証と祭りの浴衣や花笠が贈呈されたほか、太鼓の演奏体験などが行われました。

今回、訪問団の皆さんは当町の夏祭り「つるたまつり」にも参加しました。中でも、長さ216メートルの「龍巻寿司」づくりやねぶたの合同運行への参加は町の文化をとおして、町民とふれあい、町民との交流を密にした意味で貴重な経験となったはず。

15日(金)の送別会で、シャーリーン・ウィルキンズさんは今回の訪問中、親切に接してくれた鶴田町民の皆さん、そして、お互いに深い交友関係を育て、永遠に続く架け橋を築いた中野

町長と故レイ・ヤススイ氏へ感謝の言葉を贈りました。

数々の人々の心を動かしてきたフッドリバーと鶴田町の姉妹都市交流は、これからも友情と絆を育みながら広がり続けていくことでしょう。



フッドリバー市からの訪問団の皆さん



シャーリーン・ウィルキンズ



ジョナサン・ヘイル



パトリック・マルクス



ローレン・トランブル



ケネディー・ジェームス



ケビン・リパディ



マーク・ザンミラー

さつま町民との交流

8月14日（木）～16日（土）、当町が友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町より、「さつま町ねぶた運行実行委員会」の皆さんが訪れ、14日夜のつるたまつりねぶた合同運行に参加し、当町の町民との交流を楽しんだほか、16日夜の津軽富士見湖花火大会を観覧し、有意義な3日間を過ごしました。

ねぶた運行実行委員会

ねぶた運行実行委員会の発足は、4年前の平成22年8月、さつま町が合併5周年を迎えたことを記念して、当町からさつま

町へ青森ねぶた『天草四郎』を贈呈し、同年11月に贈呈されたねぶたのお披露目と運行を実施したことがきっかけ。その後、同町でのねぶた単独運行に向け、囃子方や運行組織について、同町の青年団・轟太鼓・パンプーオーケストラ・鶴田の会のメンバー・高校生クラブ等へ実行委員会加入を呼び掛け、平成23年5月に実行委員会を設立。当町からも町民が囃子の指導でさつま町を訪れ、同年8月に開かれた「さつま町夏まつり」でねぶたの運行を成功させました。現在は44人の会員のもとで活動を行っています。

両町の絆が深まる交流会

つるたまつり初日のねぶた運行に参加した同実行委員会の皆さんは囃子の衣装に身を包むと、本場青森のねぶたの迫力に歓喜に満ちた表情を見せ、大太鼓「白神姫龍神太鼓」や鉦、笛に分かれて街中を練り歩き、ねぶた囃子をにぎやかに響かせていました。

ねぶた運行後の交流会で、ねぶた運行実行委員会の東條和廣会長は「これからも両町の絆を大切にして交流を深めていきたい」とあいさつ。ステージ上では両町の囃子方の合同演奏が披露され、会場内に囃子の音色が響き渡ると、盛り上がりはピークに達しました。最後は鶴田町太鼓の会の五ツ太鼓の演奏による「さつま町民音頭」に合わせた盆踊りで交流会を締めくくりました。この日、両町の町民は心から交流を楽しみ、また一つ両町の深い友情と絆が育まれました。



①見送り時の金魚ねぶたの贈呈②姉妹で参加した下原まゆちゃん、みゆきちゃん③囃子の合同演奏にあわせて出席者が踊りました。

もう一つの交流



△ねぶたの紙貼りと絵付けを体験。子どもたちは青森のリンゴやブドウ、福島のももなどの絵を紙に描き入れ、ねぶたの骨組みに慎重に紙を貼り付けていました。



△つるた焼きの体験では、講師の花田貴美人さんがろくろを回して粘土から湯飲みの形をつくる様子に子どもたちは「おー！」と声を上げ感心していました。



△津軽ぶどう村の須郷貞次郎さんの畑で、ピンセットで小粒を抜いてブドウの形を整える作業を体験。



△中野光彦さんの園地（妙堂崎）で文字入りリンゴの作成体験。リンゴに貼るシールに好きな絵を描き入れました。

福島県の子どもたちとのふれあい。

福島県の子どもたちが来町

7月27日（日）から8月3日（日）まで、福島県の子どもたちとその家族を招いて、当町の子どもたちと交流する「鶴田キッズキャンパス（鶴田キッズキャンパス実行委員会主催）」が開催されました。

企画は県庁生活再建・産業復興局が募集した「平成26年度被災者交流総合支援事業」に含まれる「県外被災者一時受入交流事業」を同実行委員会が利用して実施。6月から約1か月の期間を設け、インターネット等で参加者を募集し、福島県から4家族10人（子ども6人と大人4人）が参加しました。

滞在中、子どもたちはほぼ初めての物づくりや農作業などを体験しました。ねぶたの紙貼りや絵付けに文字入りリンゴの作成、中でもつるた焼きのオリジナルの陶器作りや湯飲み茶碗の絵付けでは、子どもたちが思い思いの形や模様を施し、楽しんでいました。また、子どもたちはブドウ畑での農作業やリンゴ園でのバーベキュー、とれたてのハチミツの試食を体験し、心身を癒しながら当町の自然を満喫していました。

子ども2人と参加した青柳美紀さんは「この企画は子どもを自然の中で伸び伸びと遊ばせて

あげられる良い機会。福島県の子どもたちの心には『草や土も触ってはいけない』ということが残っていて、当たり前前に自然の中で遊ばせてあげることができません。今回、私たちを温かく迎えてくれた人たちには感謝しています。今回の経験が子どもたちの良い思い出となり、他の人に何かしてあげられる優しい人になってほしいです」と話していました。

参加した子どもたちは鶴田町の空気や自然に触れ、町の文化を中心に初めてのことを体験する中で、忘れられない思い出を作りました。それらは彼らの未来へとつながる大きな財産となったことでしょう。



ねぶた愛好会「つ組」の囃子練習に参加。リズムを覚えるのに一苦労しながらも、囃子を楽しんでいました。